

くすりのニュース

2018年6月版

薬や医療に関する最新の話題の中で、特に気になったニュースを皆さんにお伝えします。では、今回取り上げるニュースはこちらです。

タミフル、10代もOKに 異常行動との関連認められず

厚生労働省の有識者会議は5月16日、インフルエンザ治療薬「タミフル」の10代への使用制限を解除する方針を決めた。薬を飲んだ子どもがベランダから転落するなど異常行動が相次ぎ、2007年から10代への使用を原則禁止してきたが、タミフルによって異常行動が起きると結論づけられないと判断した。厚生労働省は年内にも添付文書の改訂を製薬会社に指示する。

他のインフルエンザ薬でも、10代の異常行動が同様に認められ、また、薬を使わない患者でも異常行動の報告があることから、「タミフルだけが危険だという誤ったメッセージになる」「薬の服用の有無、種類にかかわらず、インフルエンザに罹患した時には、異常行動を起こす可能性がある」という結論に至ったようです。



沖縄県にも薬学部 県薬剤師会が要請へ

琉球大学を最優先に沖縄県内の国公立大学への薬学部創設を求めている県薬剤師会の亀谷浩昌会長らは6月13日、西原町の琉球大を訪れ、署名10万1660筆と要請文を提出した。大城肇学長は「署名の重さを真摯(しんし)に受け止めたい」と述べた。

沖縄県は人口10万人あたりの薬剤師数が都道府県別で最も少ない。

文部科学省によると、国立大学に薬学科が設置されたのは、1969年4月の岡山大と広島大が最後。大城学長は、新学部設置はハードルが高いとしながらも「多くの県民の要望を受け、今後県や医療関係者の意見も聞きながら検討していけたらと思う」と述べた。

署名提出後、亀谷会長は「県民の要望は非常に高い。いろんな方の力を結集して堅い壁を突破したい」と意気込んだ。